やホソバオモダカ *S. trifolia* L. forma *longiloba* Makino 等と混同されやすい植物である。

絶種した新篠津湿原産のものは、がく片が濃赤色の美しい品種だった。変異の著しい植物である。

5) サワトウガラシ

本種は北海道分布になっていないが、原松次氏（1990）が初めてそのことを指摘され、登別・白老・苫小牧の分布を示された。筆者も苫小牧勇払原野で本種を採集した。本州産より小型であるが、花は本州産より大である。

群生分布するが、その植生地は極めて局所的である。岡本幹二氏（1979）も登別市～苫小牧市間の分布を記録し、原松次氏の報告と一致している。

図3 サワトウガラシ Deinostema violacea Yamazaki 北海道勇払原野産 1990. 8. 19 外山採集標本（実物大）

文 献

大滝末男・石戸 忠、1980. 日本水生植物図鑑、北隆館.
奥山春季、1974. 採集検索日本植物ハンドブック.
岡本幹二、1979. 室蘭地方植物誌（私刊）.
滝田謙譲、1987. 東北海道の植物、カトウ書館.
原 松次、1990. 北海道産植物で「日本の野生植物」にその分布が認められていない種類. 北海道の自然と生物 第3号、カヤ書店.
星 一彰、1991. 尾瀬のスギナモ. 水草研究会会報 第43号.

山口県周防部南部の若干の池沼、河川の水草（その2）

南 敦

水草研究会会報43号（1991年4月）「山口県周防部南部の若干の池沼、河川の水草（その1）」につづくものである。

1. 柳井市

(1) 柳井市水源池（上側）：柳井市黒杭 1991. 8. 29 全面にアサザが群生。イヌタヌキモが少し。他にガマがある。

(2) 柳井市水源池（下側）：柳井市黒杭 1991. 8. 29 堤防から水面にアシカキがのびていた。他に水草なし。

(3) 柳井高校周辺の水路：柳井市古開作 1991. 8. 29 オオカナダモ、クロモ、マツモ、イトモなどが非常に多い。場所により、エビモ、ヒルムシロ、ウリカワ、クログワイ、レンコン、コナギ、クワイなどが群生。ウキクサ類ではアオウキクサ、ウキクサ、コウキクサ、ミジンコウキクサなどが多い。ヒメウキクサも少しある。ミズオオバコ（花は少し紫を帯びた白色）が1本見られた。この種は近年見られなくなっていた。ホザキノフサモはみられない。

(4) 久可地の滝：柳井市伊陸 1991. 8. 31 オオミズゴケ、ヒメヤシャブシ、ヤシャブシ、ガンピ、タニガワハンノキ、イヌウメモドキ、ハシカグサ、タチカモメヅル、ヒメシロネ、サイコクキツネヤナギ、シソバタツナミソウ、ササクサ、コイヌノハナヒゲ、ヤマイ、ヒメオトギリ、コケオトギリ、サワシロギク、ハリコウガイゼキショウ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、サワギキョウ、ミズギボウシ、カキラン、アブラガヤ、ヌマトラノオ、ニガイチゴ、サジガンクビ、ノギラン、モウセンゴケ、オミナエシ、キキョウなどがある。

(5) 龍松寺の池：柳井市伊陸 1991. 8. 31 20m×50m位の古い池。ヨシも少しあるが、カキツバタ、ジュンサイ、ミクリ sp.，フトヒルムシロ、イヌタヌキモな

どが多い。水面を離れるとミズギボウシ、ミズオトギリ、サワギキョウ、ヌマトラノオ、ヒメシロネ、ミズガヤツリ、カンガレイ、イグサ、コマツカサススキ、アブラガヤ、ミソハギ、タカノツメ、イヌツルウメモドキ、ガンピ、タチカモメヅル、ノギラン、チゴザサ、カモノハシ、サワヒヨドリ、リンドウなどがある。アギナシは1株のみである。

(6) 黒杭ダム南側の谷間：柳井市新庄長溝四の井手 1991. 8. 30 以前コウホネが多数みられたが7本のみになっている。荒地になったためである。以前栽植されたものかもしれない。

2. 上関町

(1) 三汗観音上方の池：上関町福浦から上盛山に行く途中 1991. 7. 10 ヒツジグサが密生。岸にポプラ（高さ8m）が1本ある。

3. 平生町

(1) 人島の沼：平生町人島（八海） 1991. 8. 30 ヒシが全面に群生。イヌタヌキモがかなりある。浅い所はヨシが大群生。岸にカワヤナギ。近くにキシュウスズメノヒエ、ツルマメ、ケアリタソウ、ホソバノハマアカザなどがある。

(2) 荒木の小川：平生町荒木 1991. 8. 29 ホザキノフサモ、ヒルムシロなどがある。岸辺にヨシやマコモが群生している。

4. 田布施町

(1) 田布施川（関戸橋付近）：田布施町庄山 1990. 9. 1 河川改修（護岸をふくむ）により、ヒシ、ホザキノフサモ、クワイ、オオフサモなどは全くなくなった。岸辺に植栽されていた多数のアカメヤナギも除去された。岸辺にマコモが多数生えている。

(2) 堀川（田布施川支流）：田布施町土井の内、堀川 1990. 8. 29 ホザキノフサモ、エビモがやや多い。マコモも多数ある。

(3) 眞砂湖：田布施町水上 1991. 8. 31 全面ヒシが大群生。イヌタヌキモもかなり多い。岸辺にはマコモが多い。池の上側や下側の湿地にもマコモが多い。上岸のトキワススキに、ナンバンギセルが多数開花している。

(4) 楠木峠の池：田布施町奈良 1991. 8. 29 2つ池がある。上側の池にはミズヒキモが多い。イヌタヌキモもある。ヒシは少ない。岸辺にミズユキノシタとヒナザサがかなり多い。岸辺の上方にクチナシが多い。下側の池にはほとんど全面ヒシが群生。水中にはマツモが密生。イヌタヌキモが少しある。排水口辺にショウブが少しある。なお、鯉は上側、下側共にいる。

(5) 岡迫の池：田布施町岸田 1991. 8. 31 ミズヒキモが数箇所群生。イヌタヌキモが多い。ホザキノフサモ（切れて流れたもので生育は悪い）が多く浮いていた。ヒシはごく少数。鯉が放流されている。土堤にサイヨウシャジン、ヒメクズが開花していた。

(6) 丸尾の池：田布施町上松尾 1991. 8. 31 ヒシがほぼ全面に群生。イタタヌキモが少しある。池の下の水田の岸にコケオトギリが多い。

(7) 上段の池：田布施町大波野上段 1991. 8. 31 土手にアカメヤナギが十数本みられる。広い池だが水中には植物は見られなかった。

5. 大和町

(1) 須賀社の池：大和町塩田源城 1991. 9. 3 やや日陰の池であるが、池中にヤナギモが密生。水面には何もない。周防部南部ではヤナギモは比較的稀な植物である。

6. 光 市

(1) 島田川（島田辺り）：光市島田 1991. 8. 31 水中はオオカナダモばかり大群生し、クロモ、ホザキノフサモなどは見られない。岸辺にキシュウスズメノヒエ、オギ、アカメヤナギ、カワヤナギなどの群落が見られる。

7. 周東町

(1) 奥畑の池：周東町奥畑 1991. 8. 31 農免道の側に近接して2つの池がある。上側の池は10m×50m位。周囲は樹木に被われている。フトヒルムシロが密生。イヌタヌキモがかなりある。以前にジュンサイ（少量）を見ていたがなくなっている。岸辺にミズギボウシ、コケオトギリ、オオミズゴケなどが多い。下側の池は20m×80m位。光がかなり当たる。すぐ下に民家がある。コウホネ、ジュンサイ、フトヒルムシロ、シャジクモなどが群生、ミズガヤツリ、カンガレイ、アブラガヤなども少しある。岸辺にヒメシロネ、ミズギボウシ、コケオトギリ、オオミズゴケなどが多い。

下の池のジュンサイとコウホネは、その部分に他の植

物が少なく、自生品か栽植品を管理しているのかもしれない。

参考文献

(1) 南　　敦　1978. 柳井市の植物（一）. 柳井市郷談会誌第2号

(2) 南　　敦　1991. 山口県周防部南部の若干の池沼、河川の水草（その1）. 水草研究会会報　43号

（1991. 9. 4　記）

福島県猪苗代湖のヨシ群落

星　　一　彰

（福島県自然保護協会）

猪苗代湖は、福島県のほぼ中央に位置し、南北14キロ、東西10キロのやや長円形をなし、湖面面積104平方キロで、日本で4位の大湖である。標高514メートル、最大深度94メートル、湖岸の長さ49キロである。

猪苗代湖の水生植物、特に大型でよく目立つヨシの群落分布については、その調査報告が皆無に等しい。

1991年8月16日、湖岸道路を中心に全域のヨシ群落分布状態を調査した。調査結果は図1の通りである。全般的に湖北岸部に大群落が分布（図2および図3）し、西側にも点在している。群落湖岸距離は、全長49キロの約3分の1に達する。しかし、東側の大部分は護岸工事が進んでおり、ヨシ群落は皆無である。最大流入河川長瀬川流入口付近も1部護岸工事が進んでおり、ヨシ群落の減少が認められる。湖北岸部には、他の水生植物も多く、コウホネ、フトイ、クロモなどが目立っている。

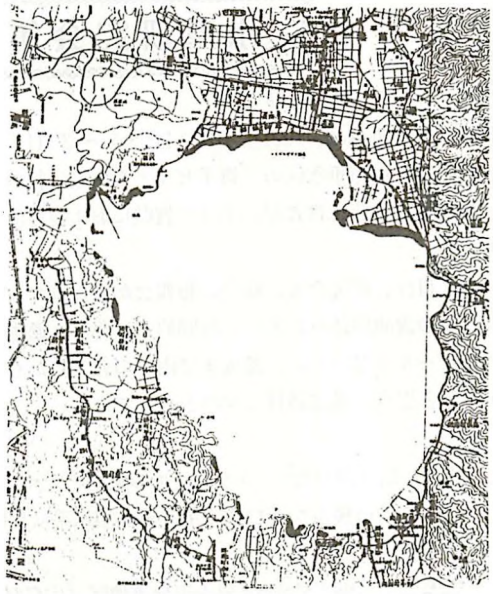

図1　猪苗代湖ヨシ群落分布図（黒塗りの部分）

猪苗代湖は現在、水資源として使用されており、流出河川日橋川の流量調節により、湖面低下も認められる。道路拡張や宅地造成などによって、ヨシ群落が1部失われた現実も確認することができる。

猪苗代湖岸のヨシ群落は、福島県内で最大規模の群落と考えられる。会津フレッシュリゾート開発地域に指定されている現実を考える時、その景観構成、水質汚濁防止効果などから考え、極めて貴重な自然文化財ということができるであろう。永久に保護されることが望まれる。

図2　猪苗代湖北岸のヨシ群落

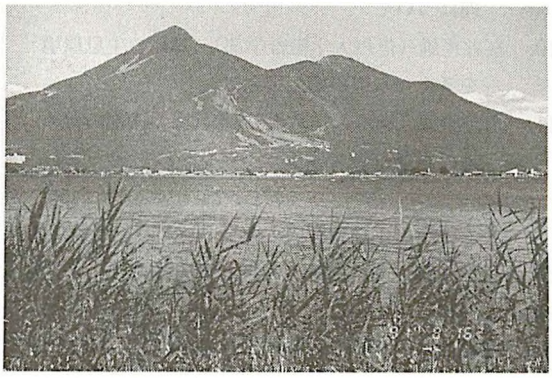

図3　磐梯山と猪苗代湖（ヨシ群落）